

令和 5 年度実施 職員アンケート調査結果（抜粋）

1. 協働を市民に広めるためにはどのような方法が考えられると思いますか。

- 市が現在市民協働に取り組んでいる内容を特集したものを広報に折り込んで参加を募ったり、SNS 等で PR して参加を呼び掛けてはどうか。
- 関係性を築き、自発的に行動して貰えることを育む環境づくりが大切であると思います。本人の持てる個性を最大限に発揮できる環境が協働を進めていき、広めていく上で重要であると思います。
- 学生や子育て世代など若い人に知ってもらうため、学校や若い人が集まるイベント等での活動で地域通貨のポイントを付与するなどは、分かりやすく効果的だと思います。
- 地域づくりを全職員で行うくらいの意気込みが必要。一方で、自然と協働しているが職員側が気が付いていない場合もある。有償ボランティアを促進すべき。ボランティアは無料という意識を変える。
- 学校現場での子供たちへの情報提供・啓発そこから少しでも家庭での話題の一つとなれば
- 協働を実践する人材を養成し、その人材が地域で実践活動を行うこと。協働を実践した人への地域ポイント付与などインセンティブの付与
- 「協働」という言葉の一人歩きとならないよう、例えば、地域課題の解決など共通の目的に対して、共に考え、協力しながら取り組んでいる現在の活動自体が協働であることを知ってもらい、身近にあるものだとの再認識が必要ではないでしょうか。
- 橋本市の頻回な啓蒙活動（橋本市民として、橋本市の「協働」への意欲が見えないため）職員の「協働」の理解促進（全国の協働事例を職員に知ってもらうなど、具体的なことを知ると自分の仕事との繋がりが見えて協働への取り組みに繋がりがやすいかも）
- 行政への理解を広げ、市民自ら参加できる機会を確保し、増やす。市職員はもっと地域活動やボランティア活動に積極的に参加し、自らのネットワークを広げる。（例）イベント実施時は、必ず市民ボランティアの活動場所を確保する。活動後は、活動報告を貰い、市民の気づきを共有し、次回実施時に活かす。（見える形で）

2. 職員への協働研修を今後も検討しています。どのような研修が良い（参加したい）と思いますか。

- 具体的な取り組みを複数わかりやすく伝えてもらえるような研修であれば、これならやってみようかなと思えるかもしれないので、抽象的な言葉ばかりではなく、具体例がわかる研修が良いと思います。
- 先進事例を詳しく学べるオンライン研修と、参加・実践型で短時間の研修があれば、多くの職員が参加しやすいと思います。
- 協働を行うにはどうしたら良いかを、先進自治体の職員を講師として招き、その話を基にしてグループ討論する。
- 体験型の研修。すでに取り組んでいる協働に、担当課外の職員が参加するなど、一度どのようなことをやっているか経験すれば、意識の向上や課題の解決につながると考える。
- 全職員に協働について学習できるような研修を望みます。e ラーニング型式だと自分のタイミングで学習できるので良いと思います。
- 地域担当職員を設けている本市において、市内在住の各職員に対しては、在住区との協働が必要と考える。このことから、自治体職員における在住地域での協働の取り組み事例や方法について、講師等により研修を重ねれば良いと考える。
- ポイントを絞った短時間の研修を複数回実施する。継続して意識できる研修が良いと思います。
- 実施事例と効果を発表し、自分でもできるという可能性を芽生えさせる
- 今、具体的に進んでいる協働の取組みが市の中でどんなものがどのように行われているかを職員間でも共有してほしい。
- 毎年実施してくださっている研修ですが、職場推進員が参加する課室が多く、同じ職員ばかり参加しているところもあるようですので、幅広い職員に参加してもらえる仕組みになればいいなと思います。
- 講演を聞いたりグループワークをすることも知識をつけるには有効だと思いますが、実際に行っている協働の取組みに参加することで具体的なイメージができるのではないかと思います。
- 協働は必要だ、やり方は自分で考えろ。という内容ではついていけない人が多いと思う。「ある特定の業務」での協働を考える。というように、テーマを限定して研修することで、協働に取り組む具体的な工程が掴みやすくないだろうか？
- 現在、はぐくむ委員と一緒に机上での研修が多いですが、実際に自治会等で実施しているイベント等を職員が参加するような研修にしてはどうか。（自治体の理解が必要ではありますが）
- 課に通知して人選させる手法は参加者に偏りが出ます。協働研修の場合は、数年間で満遍なく色々な職員に当たるように指名した方が良いと思います。